

はじめに

国立情報学研究所（以下「NII」という。）は、平成12年4月、学術情報センターの改組・転換によって設置された大学共同利用機関である。「情報学に関する我が国唯一の学術総合研究所」とであると同時に、大学等の教育・研究に不可欠な学術情報基盤整備に関わる事業・サービスを提供している。教育・研究と事業の両輪体制がNIIの特徴である。特に『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』（平成18年3月23日）において示された「最先端学術情報基盤（Cyber Science Infrastructure: CSI）」は、全国の大学・研究機関が個別に保有している膨大な計算資源（コンピュータ資源、基盤的ソフトウェア）、学術情報（コンテンツ、データベース）及び人材、研究グループ等を学術コミュニティ全体の共有財産として、超高速ネットワーク上に造り出すための基盤である。NIIは、このCSI構想のもとに、急速に変化する大学等の教育・研究活動を支援する事業・サービスをさらに強化・高度化する取り組みを行っている。

1. ミッション・中期目標・中期計画

1. ミッション

NIIは、平成16年4月から大学共同利用機関法人情報・システム研究機構の「情報に関する科学の総合研究並びに当該研究を活用した自然及び社会における諸現象等の体系的な解明に関する研究」を推進するというミッションを共有しつつ、「情報学に関する総合研究並びに学術情報の流通のための先端的な基盤の開発及び整備」（国立大学法人法施行規則）という目的のもとに以下のミッションを掲げ、研究及び事業・サービスに取り組んでいる。

- ①我が国唯一の情報学の学術総合研究所として情報学という新しい学問分野での「未来価値創成（学術創成）」をすること
- ②大学共同利用機関として「情報学活動のナショナルセンター的役割」を果たすこと
- ③学術コミュニティ全体の研究・教育活動に不可欠な学術情報基盤（学術情報ネットワークや学術コンテンツ）の事業を展開・発展すること
- ④上記の活動を通して「人材育成」と「社会・国際貢献」に努めること

2. 中期目標・中期計画（第Ⅱ期：平成22年4月1日～平成28年3月31日）

1) 中期目標

「2 共同利用・共同研究に関する目標

大学等の学術研究及び教育におけるネットワーク需要の急激な増加に対応するため、大学等及び学協会等との連携を強化し、我が国の学術研究・教育活動に不可欠な最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ：CSI）の一層の整備を推進し、情報学のみならず、全ての学問分野の学術活動を支える情報基盤を構築・提供する。」

2) 中期計画

「2 共同利用・共同研究に関する目標を達成するための措置

- ・CSIの中核としての次世代学術情報ネットワーク（SINET4）を構築・整備し、急速なネットワーク需要に対応するとともに、あわせて学術研究活動の連携、学術リソースの共有化のための機能を一層強化する。
- ・大学等におけるネットワーク上での学術連携、教育連携及び社会連携等を推進するために不可欠な電子認証基盤、学術計算資源基盤、ネットワークサービス基盤等の整備を推進する。
- ・図書館等との連携・協力のもと、学術コミュニティのニーズを踏まえ、大学等における教育・研究に不可欠な学術コンテンツを形成・確保・提供するとともに、異種コンテンツ間の統合や学術コンテンツを提供するためのポータル機能の高度化などをすすめることにより、次世代学術コンテンツ基盤の整備・提供を推進する。」

3. 事業・サービス推進のための基本的な考え方

NIIは、大学等との連携に基づき、以下の基本的な考え方により事業・サービスを推進することとしている。

①学術情報基盤の高度化・機能向上

世界に伍す先端的学術情報基盤の構築・整備

②学術情報基盤運営連携の推進

自前主義を排し、連携による効率的・効果的な学術情報基盤の整備

③学術情報サービス連携の推進

NDL、JST 等他の学術情報サービス機関との連携による学術情報基盤の整備

④産学連携・社会貢献・国際貢献

II. 事務組織（平成24年4月）

1. 2部4課1室1センター

1) 学術基盤推進部（学術基盤課、学術コンテンツ課、図書館連携・協力室、情報基盤センター）

2) 総務部（企画課、総務課）

2. チーム及び室（学術基盤推進部）

1) 学術基盤課

①総括・連携基盤チーム：部内・課内総括、サービスシステム管理、認証連携基盤の運営

②SINET チーム：学術ネットワークの運営

③SINET 利用推進室：SINET 利用に関する啓蒙や利用支援、オープンフォーム活動

④クラウド推進室：所内クラウドの推進及び大学間クラウドに関する研究

⑤学術認証推進室：学術認証（学認等）及びHPCIの推進

2) 学術コンテンツ課

- ①コンテンツチーム：学術コンテンツ・ポータル、電子アーカイブ
- ②図書館連携チーム：NACSIS-CAT/ILL、機関リポジトリ、教育研修事業、SPARC Japan
- ③コンテンツシステム開発室：コンテンツサービスのシステム開発
- 3) 図書館連携・協力室：大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）事務局
- 4) 情報基盤センター
 - ①所内情報環境整備チーム：所内 LAN の整備・運用
 - ②所内図書情報チーム：図書室の運営

III. 事業・サービス

1. 最先端学術情報基盤（CSI: Cyber Science Infrastructure）の構築・推進

NII が大学等と連携して構築・推進している CSI は、大学等において急速に変化している教育・研究環境を支える学術情報流通基盤を整備する事業であり、学術施策の一環として推進されるべきものである。NII では現在以下について重点的に取り組んでいる。

- ①大学における情報基盤センター等との連携による、学術情報ネットワーク（SINET4）、全国的な大学共同電子認証基盤等の整備
- ②大学図書館等との連携による、次世代学術コンテンツ基盤の整備

2. CSI の推進体制

1) 学術情報ネットワーク運営・連携本部

- ①企画作業部会
- ②ネットワーク作業部会
- ③認証作業部会
- ④高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進部会

2) 学術コンテンツ運営・連携本部

- ①図書館連携作業部会

3. 学術情報ネットワーク

1) 学術情報ネットワークの意義

- ①先端的学術連携に不可欠な最先端ネットワーク基盤の提供
 - ・研究拠点を最大 80Gbps で接続し、最先端研究のニーズに対応
 - 【例】国立天文台、核融合科学研究所
- ②学術研究・教育活動に不可欠な情報ライフラインの提供
 - ・加入機関数 769、接続機関数 936（平成 24 年 3 月末現在）、200 万人以上の研究者・学生が利用
- ③国際連携の基盤の提供
 - ・海外の研究教育ネットワーク（NREN）との接続
 - 【例】Internet2（米国）、GÉANT2（欧州）、TEIN4（アジア）

- 2) 学術情報ネットワーク SINET4 (サイネット・フォー) の運用 (平成 23 年 4 月～)
 - ①従来の SINET3 を構造変更し、さらなるネットワークの高速化、高安定化を実現
- 3) SINET4 の特徴
 - ①ネットワークの高速化
 - ・コア回線は、40Gbps を基本とし、エッジ回線は 2.4Gbps～40Gbps で構成
 - ・アクセス回線 (ノード校) は、ダークファイバ+WDM (波長多重装置) 技術等により最大 40Gbps まで、経済的かつ柔軟な高速化が可能
 - ②ネットワークの信頼性向上
 - ・コア回線、エッジ回線の完全冗長化及びコア回線の迂回路強化を図るとともに、すべてのノード (8 コアノード、42 エッジノード) を通信事業者のデータセンタへ設置することで、災害や障害に強い信頼性の高いネットワーク構成を実現
 - ・東日本大震災の際にも継続してサービスを提供
 - ③多様なネットワークサービス
 - ・マルチレイヤーサービス (専用線、イーサネット、インターネット) の提供
 - ・リソースオンデマンドサービス (臨時専用線・VPN サービス)
 - ・マルチレイヤーVPN (Virtual Private Network サービス)
 - ・マルチレイヤーQoS (Quality of Service) サービス
 - ・情報提供サービス (セキュリティ情報、パフォーマンス計測等の提供)
 - ④高速アクセス回線環境の整備
 - ・ノード未設置県については、平成 23 年度中に整備完了
 - ⑤上位レイヤ展開
 - ・上位レイヤサービスを支援するインタフェースやサービス提供プラットフォームを検討中
- 4) ネットワーク利用の推進
 - ①学術情報基盤オープンフォーラム
 - ・平成 21 年 6 月 12 日に発足式を開催 (現在 243 機関が参加)
 - ・クラウドやセキュリティなどをテーマとした情報交換を主眼とした説明会を実施
 - ・説明会の開催状況 (平成 23 年度実績)
 - ・学術情報基盤オープンフォーラムの開催 (3 回)
 - ②SINET 利用推進室の設置 (平成 19 年 10 月)
 - ・利用支援、普及・利用促進、調査等
 - ・説明会の開催状況 (平成 23 年度実績)
 - ・クラウドサービスのための SINET 及び学認説明会 (全国 7 ヶ所)
- 5) 国際回線 : 米国、アジア、ヨーロッパの学術ネットワークとの相互接続
 - ①北米回線
 - ・ニューヨーク向け : 10Gbps (ニューヨークでヨーロッパ回線と相互接続)
 - ・ロサンゼルス向け : 10Gbps

②アジア回線

- ・シンガポール向け：2.4Gbps

6) 全国大学共同電子認証基盤構築事業

①サーバ証明書発行プロジェクト

- ・大学の Web サーバに対してサーバ証明書を発行
- ・サーバ証明書の意義や必要性の啓発、セキュリティ向上が主な目的
- ・審査の自動化等の検証のため、平成 21～26 年度の 6 年間研究プロジェクトとして実施

②学術認証フェデレーション (GakuNin) の運用 (平成 22 年 4 月～)

- ・Shibboleth による大学間学術リソース共有及び商用サービスプロバイダとの接続を実現
- ・Science Direct、SCOPUS、Springer、Web of Knowledge、Ovid SP、Dreamspark、RefWorks、Cambridge Journals Online、Pathology Images、EBSCOhost 等との商用プロバイダとの接続が完了
- ・CiNii、テレビ会議システム、eduroam (無線 LAN) 等の NII のサービスも利用可能
- ・参加機関：41 (平成 24 年 5 月末現在)

4. 目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL)

1) 接続機関数 (平成 24 年 3 月末現在)

サービス名		参加機関数	備考
NACSIS-CAT		1,262 (1,248)	大学 733、短大 126、高専 54、大学共同利用機関 16、その他 205、海外機関 128
NACSIS-ILL		958 (945)	利用実績のある機関数 ※利用番号を持つ機関数 1,112 (1,099)
ILL 相殺サービス		838 (817)	大学 702、高専 57、その他 79
GIF (日米)	日本側	162 (159)	現物貸借参加は 89 図書館
	北米側	87 (81)	現物貸借参加は 46 図書館
GIF (日韓)	日本側	115 (115)	
	韓国側	300 (292)	

*括弧内は前年同月数

2) 蓄積レコード数・処理件数 (平成 24 年 3 月末現在)

①蓄積レコード数

	図 書	雑 誌	合 計
書誌レコード数	9,781,000	327,000	10,108,000
所蔵レコード数	115,050,000	4,601,000	119,651,000

・接続端末台数
約 5,000 台
(ピーク時 6,000 台)

典拠レコード数	著者名典拠	統一書名典拠	
	1,590,000	30,000	1,620,000

②ILL 処理件数 (平成 23 年度) * () は、平成 22 年度

	文献複写	現物貸借	合 計
ILL 処理件数	761,000	90,000	851,000
	(789,000)	(95,000)	(884,000)

③GIF 処理件数 * () は、平成 22 年度

		文献複写	現物貸借	合 計
日米 ILL/DD	依頼	1,658 (1,256)	438 (355)	2,096 (1,611)
	受付	981 (909)	882 (813)	1,863 (1,722)
日韓 ILL/DD	依頼	63 (86)	—	63(86)
	受付	3,313(2,926)	—	3,313(2,926)

3) 遡及入力事業

- ・NACSIS-CAT 参加館における遡及入力を促進するために平成 16 年度から実施しているプロジェクト
- ・公募によって実施館を募集
- ・平成 22 年度から第 3 期 3 年間を開始

	年度	採択件数
第 1 期	平成 16 年度	29 件
	平成 17 年度	53 件
	平成 18 年度	57 件
第 2 期	平成 19 年度	20 件
	平成 20 年度	18 件
	平成 21 年度	14 件
第 3 期	平成 22 年度	11 件
	平成 23 年度	9 件

4) 次世代目録システムの検討

- ・図書館連携作業部会ワーキンググループでの検討
- ・次世代コンテンツ基盤形成の将来構想検討 (『電子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想』(学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会報告書))

5. 学術コンテンツ・ポータル

1) 構成するデータベースとレコード件数 (平成 24 年 3 月末現在)

データベース	収録件数 (万件)	備 考
CiNii (論文情報ナビゲータ)	1,530	引用文献索引データベース、

		NII-ELS、雑誌記事索引
Webcat Plus	2,500	連想検索
KAKEN(科学研究費補助金 DB)	67	採択課題、研究実績報告、研究成果概要
NII-DBR (学術DBリポジトリ)	223	29 データベース
JAIRO (学術機関リポジトリ・ポータル)	130	200 機関リポジトリに蓄積された学術情報
NII-REO (電子ジャーナルリポジトリ)	380	Springer、OUP、IEEE/CS、HCPP

2) 電子図書館事業等 (平成 24 年 4 月現在)

①電子図書館サービス

- ・学協会との連携 1,283 タイトル (フルテキスト 340 万件)

②学術雑誌公開支援事業

- ・大学等との連携 研究紀要 7,643 タイトル (フルテキスト 39 万件)

3) アーカイブ事業

①NII-REO の拡充

- ・電子ジャーナルバックファイルの基盤的整備 (Springer、OUP)
- ・人文社会科学系電子ファイルの基盤的整備 (HCPP、MOMW)

②国際連携

- ・CLOCKSS (Controlled LOCKSS: Lots of Copies Keep Stuff Safe) との連携
 - ・日本の大学図書館向け特別提案のアグリーメント締結 (平成 22 年 10 月)
 - ・国内参加大学 29 機関 (国立: 15、公立: 1、私立: 13)

4) 他の情報サービスとの連携・協力

①科学技術振興機構 (JST)、国立国会図書館 (NDL)、医学中央雑誌 (医中誌)

②Google、Yahoo の検索エンジン

6. 学術機関リポジトリの構築・連携支援事業

1) 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト (平成 16 年度)

2) 第 1 期 (平成 17 年度～平成 19 年度)

- ・領域 1: 機関リポジトリの構築と運用→70 機関に委託
- ・領域 2: 研究開発→22 テーマ (最終的に 14 プロジェクトに集約)

3) 第 2 期 (平成 20 年度～平成 21 年度)

- ・領域 1: 機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充→74 機関に委託
- ・領域 2: 新サービス、利便性向上のための調査・研究・開発→21 プロジェクト

4) 第 3 期 (平成 22 年度～平成 24 年度)

- ・領域 1: コンテンツ構築支援→24 機関に委託 (平成 23 年度追加 7 機関)
- ・領域 2: 先導的プロジェクト支援→8 プロジェクトに委託

- ・領域3：学術情報流通コミュニティ活動支援→4プロジェクトに委託
- 5) 成果報告会
- ・平成18年度成果（平成19年7月3日）
 - ・平成19年度成果（平成20年6月12～13日）
 - ・平成20年度成果（平成21年7月9～10日）
 - ・平成21年度成果（平成22年6月22日）
 - ・平成22年度成果（平成23年6月13～14日）
 - ・平成23年度成果（平成24年6月12～13日）
- 6) 機関リポジトリ構築状況（平成24年3月末）
- ①機関リポジトリ公開機関：233機関
 - ②蓄積コンテンツ数：130万件（JAIRO蓄積レコード数）
- 7) NIIの役割
- ①コンテンツ形成支援
 - ②システム構築支援
 - ・メタデータフォーマットjunii2の公開
 - ・機関リポジトリ構築ソフトウェア（WEKO）公開
 - ③コミュニティ形成支援
 - ・研修、シンポジウム、ワークショップ等の開催
 - ④機関リポジトリ・ポータルJAIROの提供
 - ⑤共同リポジトリ（JAIRO Cloud）によるクラウドシステム環境の提供
7. 教育研修事業
- 1) 講習会・研修
- ①講習会・地域講習会（目録システム講習会、ILLシステム講習会）
 - ②専門研修（学術ポータル担当者研修、学術情報リテラシー教育担当者研修、大学図書館職員短期研修、情報処理技術セミナー、NACSIS-CAT/ILLワークショップ）
 - ③国立情報学研究所実務研修
- 2) 講習会の改善
- ①研修機会の拡大：新しい研修形態の導入
 - ・e-Learning手法の導入：セルフラーニング教材の開発・運用
 - ②講習内容の理解度確認
 - ・セルフチェックテスト
 - ③研修・講習会の変更
 - ・学術ポータル担当者研修のテーマ、カリキュラム改変（平成23年度～）
 - ④講習会講師支援
8. 国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）

日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子化・国際化を強化することによって、学術情報流通の国際的基盤の改善に寄与することを目的とした事業。

1) 事業内容

- ①学会誌合同プロモーション支援
- ②コミュニティ支援
- ③国際連携の推進
- ④ビジネスモデルの創出支援
- ⑤調査・啓発事業の推進

2) 事業期間

- ①第一期（平成 15 年度～17 年度）
- ②第二期（平成 18 年度～20 年度）
- ③第三期（平成 22 年度～24 年度、平成 21 年度は準備期間）

3) 事業推進・連携体制

①国内

- ・学協会、大学図書館、科学技術振興機構（JST）との連携
- ・国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会及び事務局

②海外

- ・SPARC、SPARC Europe、BioOne、Project Euclid

4) Advocacy 活動

- ①SPARC Japan セミナーの開催（平成 17 年度以降年数回）
- ②SPARC Digital Repositories Meeting 2008/2010

5) 国際連携活動

- ・SCOAP³、arXiv.org の支援

9. 最近の特筆すべき動向

1) 大学図書館との連携・協力推進のための協定

- ・「大学共同利用期間法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所と国公立大学図書館 協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書」締結（平成 22 年 10 月 13 日）
- ・連携・協力の課題
 - ・バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
 - ・機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
 - ・電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
 - ・学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
 - ・学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
- ・連携・協力推進会議を設置
 - ・大学図書館コンソーシアム連合運営委員会
 - ・これからの学術情報システム構築検討委員会

- 2) 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) の活動支援
 - ・学術基盤推進部内に事務局 (図書館連携・協力室) を設置 (大学図書館からの出向職員を配置)
- 3) 電子リソース管理データベース (ERDB) プロトタイプ構築プロジェクト
 - ・電子リソースの管理と有効活用を図るために、12 の図書館の参加を得て、ERDB の構築をめざしたプロジェクトを開始
 - ・キックオフ・ミーティングの開催 (平成 24 年 5 月 31 日)

【参考文献等】

1. 『国立情報学研究所要覧』平成 23 年度
(<http://www.nii.ac.jp/userimg/youran2011.pdf>) [アクセス : 平成 24 年 6 月 7 日]
2. 『学術情報基盤の今後の在り方について(報告)』(平成 18 年 3 月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)
3. 『電子情報環境下における大学図書館機能の再検討』(平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)課題番号 16300075)研究成果報告書(平成 19 年 3 月))
4. 『学術コミュニケーションの新たな地平:学術機関リポジトリ構築連携支援事業第 1 期報告書』(平成 20 年 12 月) (http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h17-19_report.pdf) [アクセス : 平成 24 年 6 月 7 日]
5. 『次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)』(平成 21 年 3 月) (http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf) [アクセス : 平成 24 年 6 月 7 日]
6. 『大学図書館の整備について (審議のまとめ—変革する大学にあって求められる大学図書館像—)』(平成 22 年 12 月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)
7. 『変容する学術情報流通、進展する機関リポジトリ : 学術機関リポジトリ構築連携支援事業第 2 期報告書』(平成 23 年 11 月) (http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h20-21_report.pdf) [アクセス : 平成 24 年 6 月 7 日]
8. 『電子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想』(平成 24 年 3 月 国立情報学研究所 学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会) (http://www.nii.ac.jp/content/archive/pdf/content_report_h23.pdf) [アクセス : 平成 24 年 6 月 7 日]

NII

国立情報学研究所の戦略

国立情報学研究所 学術基盤推進部
尾城 孝一

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

NII

国立情報学研究所の概要

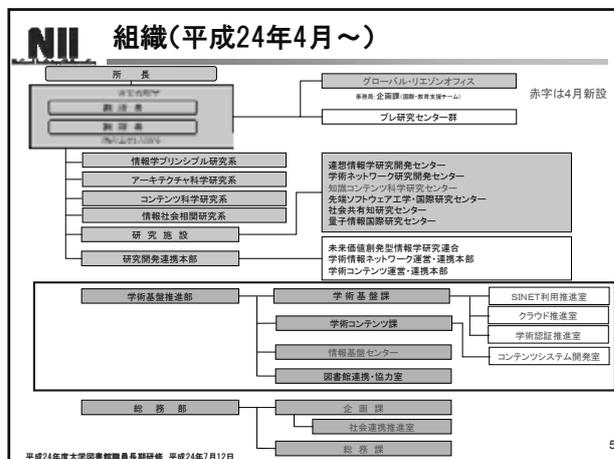
歴史・ミッション・CSI・組織

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

NII 歴史(年表)

年月	事項
昭和51(1976)年5月	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和58(1983)年4月	東京大学文献情報センター設置(情報図書館学研究センターを改組)
昭和61(1986)年4月	学術情報センター(NACSIS)設置
平成12(2000)年4月	国立情報学研究所(NII)設置(学術情報センターの廃止・転換)
平成16(2004)年4月	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所設置

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日



NII

学術ネットワーク事業

SINET4・学術認証フェデレーション

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

6

NII 学術情報ネットワーク(SINET)

- ◆ 我が国の学術研究・教育活動の情報ライフラインの提供
- ◆ 先端的学術研究連携に不可欠な最先端ネットワーク基盤の提供
- ◆ 国際連携の基盤の提供
- ◆ 平成23年度より次期学術情報ネットワーク(SINET4)を運用開始

海外研究ネットワークとの相互接続

図は平成23年度末の構成

- : コアノード (42拠点)
- : エッジノード (42拠点)
- : エッジ回線 (2.4Gbps)
- : エッジ回線 (10Gbps)
- : エッジ回線 (40Gbps)
- : コア回線 (10Gbps)
- : コア回線 (40Gbps)

全国 700 以上の大学・研究機関が接続、200万人にサービス

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

7

NII SINET4のネットワーク構成(平成24年度)

- ◆ エッジノード(加入機関収容)は42拠点、コアノード(加入機関収容+中継)は8拠点
- ◆ コア回線(コアノード間)は40Gbpsを基本として冗長化を図り、エッジ回線(エッジノード間)は2.4Gbps~40Gbps、アクセス回線は10Gbps~40Gbps(可変速)

- : エッジ回線 (40Gbps)
- : エッジ回線 (10Gbps)
- : エッジ回線 (2.4Gbps)
- : アクセス回線 (10~40Gbps)
- : コアノード (コアノード)
- : エッジノード (エッジノード)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

8

NII (参考)東日本大震災時の影響

- ◆ 東日本大震災時にも、バックボーンとしてサービス断の発生なし
- ・ エッジ回線、コア回線は全て二重化し、かつ、ネットワークとして冗長経路を確保
- ・ エッジノード、コアノードは全てDCIに設置し、地震や停電への耐性を確保
- ・ 各ネットワークサービスに対応した高信頼化技術を導入

— : 現用系
— : 現用系
— : 予備系
— : 予備系
● : 停電

地震前 地震後

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

9

NII 日本経済新聞(平成23年9月26日付)

研究開発イノベーションを強固に

【国立情報学研究所】通信回線の容量2倍
【京大】共同配送で安定供給

科学・技術

平成24年度大学図書館職員長期研修

10

NII SINET4の提供サービス一覧

- ◆ 世界最先端のサービス群の提供を継続するとともに、オンデマンドサービスなどを拡張予定。

サービスメニュー	SINET4	備考
提供インタフェース		
E/FE/GE (T)	◎	
GE (LX)	◎	
10GE (LR)	◎	
L3サービス		
インターネット接続	◎	→いわゆる普通のインターネット
IPv6	◎	native/dual stack/tunnel
マルチホーミング	◎	
フルルート提供	◎	
IPマルチキャスト	◎	
L3VPN	◎	
アプリケーション毎0ns	◎	
IPマルチキャスト (QoS)	◎	
L3VPN (QoS)	◎	
L3VPN (マルチキャスト)	予定	
L2VPN/VPLS	◎	
L2サービス		
L2VPN/VPLS (QoS)	◎	
L2オンデマンド	soon	
L1サービス		
L1オンデマンド	◎	
パフォーマンス計測/改善	◎	スループット/RTT情報提供、性能改善ソフト提供
ユーザ支援サービス		
トラフィック利用状況	◎	
商用クラウド接続	◎	

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

11

NII SINET4関連プロジェクト

- ◆SINET加入機関向けサービス提供機関(クラウド接続)
上位レイヤサービス(ストレージ、メール等)を提供する機関(事業者)が直接SINETに接続できる枠組み。これにより、利用する大学が個別に専用線を用意することなく、専用線を利用したのと同じ、高速で高機能なサービスを利用できる。
- ◆学術認証フェデレーション(学認)
Shibbolethを利用したWebアプリケーションへのシングル・サイン・オン(SSO)をセキュアに実現するための分散型認証基盤
- ◆JPKIオーブドメイン証明書自動発行検証プロジェクト
電子証明書自動発行支援システムを用いて、大学等の機関と連携し、サーバ証明書発行プロセスの学術機関最適化および自動化について検証するプロジェクト
- ◆eduroam
eduroamは欧州のTERENAが開発された教育・研究機関用の無線LANローミング基盤で、これにより参加大学等の中でキャンパス無線LANの相互利用を実現

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 12

NII 学認とは

いつでもどこでも、簡単・セキュアに個人認証し、ウェブリソースを利用しやすくする仕組み

- ☑記憶するIDは1種類 (統合認証)
- ☑情報入力は1回だけ (SSO)
- ☑学内外、国内外、OK (リモートアクセス)
- ☑Webブラウザだけ (別ソフト不要)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 13

NII 学術認証フェデレーション

日本における公式Shibbolethフェデレーション

平成20年度 実証実験
平成21年度 試行運用
平成22年度 本格運用

参加者: 利用機関(大学等) 提供機関(コンテンツベンダ等)
企画・運営: NII学術情報ネットワーク運営・連携本部>認証作業部会>学認タスクフォース
運用ルール: 実施要領(参加資格等) 運用基準(データ・システム定義)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 14

NII 世界のフェデレーション

Current National Federations: Austria (Austria), Belgium (Belgium), Canada (Canada), China (China), Czech Republic (Czech Republic), Denmark (Denmark), France (France), Germany (Germany), Greece (Greece), Hungary (Hungary), India (India), Ireland (Ireland), Israel (Israel), Italy (Italy), Japan (Japan), Korea (Korea), Lithuania (Lithuania), Mexico (Mexico), Netherlands (Netherlands), Norway (Norway), Poland (Poland), Portugal (Portugal), Spain (Spain), Sweden (Sweden), Switzerland (Switzerland), The Netherlands (Dutch Federation), United Kingdom (UK Access Fed), United States (US Connect)

http://www.internet2.edu/pubs/national_federations.pdf 15

NII 学認参加状況 平成24年6月現在

IdP:60機関	SP:40機関
運用中 北海道大 岡山大 北星工大 広島大 旭川医科大 山口大 山形大 愛媛大 千葉大 九州工業大 筑波大 九州大 東京大 佐賀大 東京農工大 宮崎大 横浜国立大 釧路高専 山梨大 鈴鹿高専 名古屋大 放射線医学研究所 国立情報学研究所 信州大 広島立大 金沢大 自治医科大学 三重大 日本大 京都大 明治大 奈良教育大 東邦大 奈良先端大 立教大 大蔵大 成城大 神戸大 香取金葉大 広島工業大	運用中 【学術コンテンツサービス】 360 (4)services (Serials Solutions) , BioOne, Cambridge Journals Online , Cengage learning, Ebrary (ProQuest) , EBSCO host, Emerald , HighWire Press e-journals , IEEE Xplore, IOPscience, Karger S, OvidSP, Pathology Images (Atlases), Pier Online(サンメデア), Read & Researchmap(JST), RefWorks (ProQuest), RSC (Royal Society of Chemistry), Science Direct (Elsevier), SCOPUS (Elsevier), SpringerLink (Springer), Web of Knowledge (Thomson) 研究社オンラインディクショナリー(研究社), CINIL, NII-RED 他 【ウェブ上のユーティリティ】 ファイル送信サービス(金沢大),JMCデータリポソトリ(金沢大), 学術情報共有のための双方向コミュニケーションサービス(山形大), HINET wlan guest service(広島大), モバイルWIMAXキャンパスネットワーク接続(LQ&京大) Openate ネットワーク利用者認証(佐賀大)しほすけ(アトキ7), Foyle(Uninet), FaMCoUs (NII), Edubase cloud(NII), Educom-Shib(NII&京大), Fshare(NII), WebCLS (NII) 他 【開発環境】 DreamSpark (Microsoft) 【学内システムパッケージ等 多数】 大学図書館システム, 統合認証システム 他
参加準備中 国立12 公立2, 私立4, 他1 計19機関	

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 16

NII シングルサインオンの利用例

複数のデータベースや電子ジャーナルを1度の認証で利用することが可能。

ユーザ Science Direct の論文も見たい
 認証済ですね。どうぞ。 ScienceDirect
 RefWorksのリストを更新しよう
 認証済ですね。どうぞ。 RefWorks
 ブラウザを閉じたらログアウト

以後、SSO (シングルサインオン)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 17

NII 活用例

論文を探して 読んで 管理する

◆リモートアクセスによる利用の促進
◆SSOによるユーザビリティ向上 etc.

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 18

NII 学術コンテンツ事業

NACSIS-CAT/ILL
学術機関リポジトリ構築連携支援事業
国際学術情報流通基盤整備事業
電子アーカイブ事業
GeNii(CiNii/KAKEN)
教育研修事業

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 19

NII 全体像(コンテンツの確保と発信)

提供
NIIの提供する学術コンテンツ

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 20

NII CAT/ILLの現状

◆NACSIS-CAT/ILLシステム

- ▶ NACSIS-CAT
 - ・ 書誌レコード 約1,010万件
 - ・ 所蔵レコード 約1億1,505万件
 - ・ 参加機関 1,263機関
- ▶ NACSIS-ILL
 - ・ 複写年間 約76万件
 - ・ 貸借年間 約9万件
 - ・ 海外ILL(OCLC, KERIS)

◆ハードウェア・リプレイス

- ▶ 平成25年3月にハードウェアをリプレイス
- ・ 3月の数日間、サービスを停止
- ・ CAT/ILLシステムの変更なし

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 21

NII CATデータの提供・公開

□ Web検索サービスのリニューアル

- ▶ Webcatは平成25年3月8日(金)で終了
- ▶ WebcatPlusは図書発見ツールとして進化

◆ CiNiiでの図書・雑誌検索
CiNii Booksを平成23年11月にWebcatの後継として公開

NACSIS Webcat 平成25年3月8日終了

CiNii Books
<http://ci.nii.ac.jp/books/>

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 22

NII 選及入力事業

◆ 第1期 平成16年度～平成18年度

- ▶ 書誌作成の促進: コレクション、多言語資料を対象

◆ 第2期 平成19年度～平成21年度

- ▶ 所蔵登録の促進: 大規模選及入力の支援(委託事業)
- ▶ 書誌作成の促進

◆ 第3期 平成22年度～平成24年度

- ▶ 書誌作成と所蔵登録促進の一本化(委託事業)

◆ 今後の方針

- ▶ 学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会等で検討

◆選及入力事業の実績

	第1期			第2期			第3期	
	H.16	H.17	H.18	H.19	H.20	H.21	H22	H23
採択件数	29	53	57	22	18	14	11	9
入力レコード件数	152,558	287,222	217,579	286,985	517,847	417,408	287,292	66,098

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 23

NII 機関リポジトリとは

大学等の教育研究機関が、その知的生産物を電子的形態で収集し、保存し、無料で発信するために設置する電子アーカイブシステム

海外の学術雑誌に掲載された学術論文も収録することでオープンアクセス促進の役割も果たしている

【収録対象】

- 学術論文(学術雑誌論文、紀要論文、学位論文)
- その他、テクニカルレポート、会議発表論文、教材・データなど

【NIIの役割】

- 機関リポジトリの構築支援
- 機関リポジトリの連携支援
- 一括検索機能の提供

【大学等の役割】

- 機関リポジトリの構築
- 機関内生産情報の収集・保存
- 大学等からの情報発信

連携・協力

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 24

NII 学術機関リポジトリ構築連携支援事業

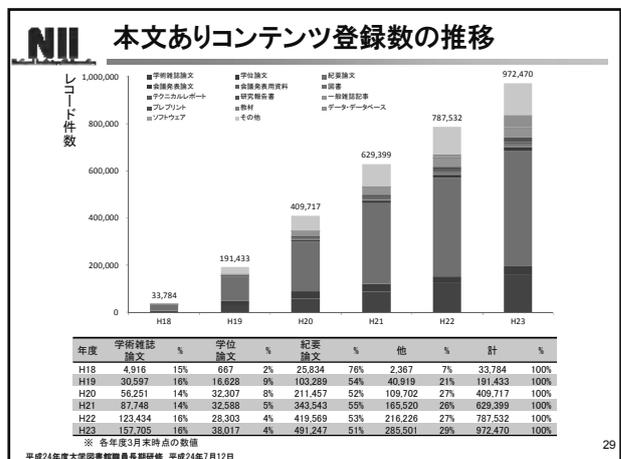
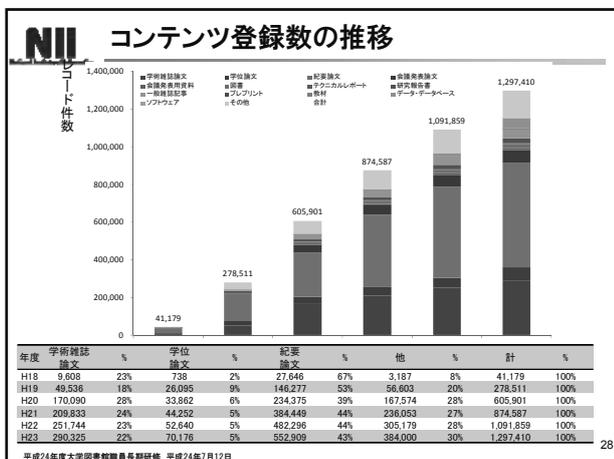
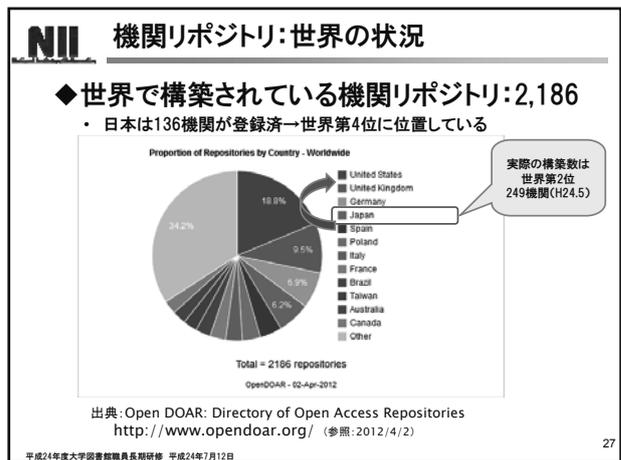
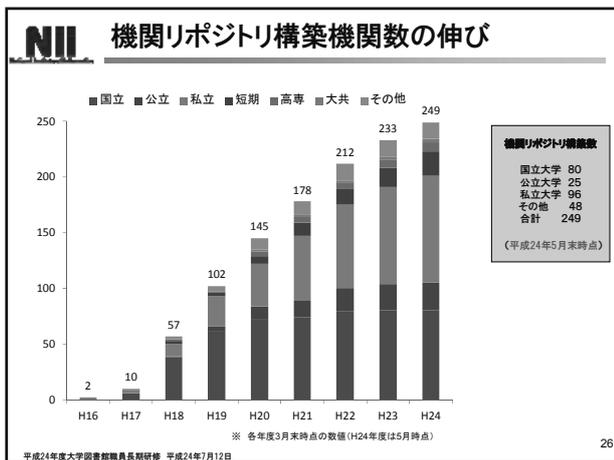
◆CSI委託事業

- 第1期(H17-19)、第2期(H20-21)
 - 対象: 大学、短大、高専 → 大学共同利用機関追加(第2期)
 - 領域1(機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充)
 - 領域2(リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)
- 第3期事業(H22-24)
 - 領域1(コンテンツ構築支援): 採択機関数:24+7
 - 領域2(先進的プロジェクト支援): 採択プロジェクト数:8
 - 領域3(学術情報流通コミュニティ活動支援): 採択プロジェクト数:5→4

◆NIIが行っている機関リポジトリ関係のサービス

- メタデータフォーマット(Junii2)
- 学術機関リポジトリポータル(JAIRO)
- Ciniiから機関リポジトリへのシステム連携
- 機関リポジトリ構築ソフト(WEKO)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 25



NII 課題：設置率

現状、国立はほぼ構築済みだが、公立は2割強、私立は1割強程度

項目	計	内訳		
		国立	公立	私立
A) 機関リポジトリ公開機関数 ※1	201	80	25	96
B) 大学数 ※2	780	86	95	599
設置率 (A+B)	25.77%	93.02%	26.32%	16.03%

※1 申請ベースのため、カウント漏れの可能性あり
 ※2 文部科学省「H23年度学校基本調査」より

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 30

NII JAIRO Cloud共用リポジトリ

- 事業内容
 - 機関リポジトリの自力構築が困難な機関向けに、リポジトリのシステム環境を提供し、運用を支援する。
 - NIIが開発した機関リポジトリソフトウェア「WEKO(ウェコ)」をベースに、共用リポジトリのシステム環境を構築
- サービス対象
 - 日本国内の大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関のうち、当面は次の機関を対象とする。
 - 新たに機関リポジトリを構築する機関
 - 地域共同リポジトリを構築する機関
- 事業の目標
 - 平成27年度までに200機関の新規構築
 - 既構築機関(約200機関)と併せて400機関となり、博士後期課程を持つ大学はほぼカバー

ハードとソフトはNIIが構築・運用

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 31

NII JAIRO Cloudサービス概要

- ◆ 当面、利用料は無料
- ◆ 対象は、新規構築機関
- ◆ 正式運用開始(平成24年4月～)

申請機関数	内訳			
	私立	公立	短期	その他
70	56	5	5	4

(平成24年5月末現在)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 32

NII JAIRO Cloudによる構築例

神戸松蔭女子学院大学 <https://shoin.repo.nii.ac.jp/> 聖心女子大学 <https://u-sacred-heart.repo.nii.ac.jp/>

札幌大学 <https://sapporo-u.repo.nii.ac.jp/> 清泉女学院 <https://seisen-jc.repo.nii.ac.jp/>

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 33

NII 課題：コンテンツ捕捉率

コンテンツ種別	複製となる件数	捕捉率
紀要論文	総件数 : 約102万件 ¹⁾ 機関リポジトリ収録件数 ²⁾ : 約47万件	46.3%
学位論文	総件数 : 約56万件 ³⁾ 機関リポジトリ収録件数 ²⁾ : 約3万5千件	6.2%
学術雑誌論文	英文論文数 ⁴⁾ : Web of Scienceの収録論文(2009年出版分)のうち、著者の所属機関が日本の論文 : 約7万9千件 機関リポジトリ収録件数 ⁴⁾ : 約2,900件	3.7%

(注)
 1) CINI(NII-ELS)収録の紀要論文数
 2) JAIROのデータ収録件数(本文あり)、2011年12月末時点
 3) NII-DBR⁷⁾博士論文書誌データベース収録論文数
 4) 尾崎幸一、オープンアクセス序論：掲載報告 シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」2010年12月10日。 http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2010/pdf/7/1_0A_introduction_final.pdf

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 34

NII 今後の機関リポジトリの推進(検討中)

- ◆ 大学図書館とNIIの連携・協力の枠組みの中に推進母体を設置
- ◆ そこを中心に、これまでの成果と課題を踏まえ今後の推進計画を策定し、図書館とNIIが共同で実施
- ◆ NIIの重点事業
 - JAIRO Cloudの拡充
 - 対象機関の拡大
 - 機能の高度化

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 35

NII 電子アーカイブ事業

◆NII-REO(NII電子ジャーナルリポジトリ)

▶ 我が国の大学図書館等が購読する電子ジャーナル等のアーカイブ

・ ライトアーカイブ(常時アクセス可)による安定的な提供の実現

▶ 大学図書館等と連携した共同導入コンテンツの受け皿

・ 電子ジャーナルバックファイル(Springer, OUP)
・ 人文社会科学系電子コレクション(HCPP:英国下院議会資料等)

◆国際連携(CLOCKSS)

▶ 国際的な電子ジャーナル長期保存プロジェクトとの連携

▶ CLOCKSS (Controlled LOCKSS: Lots of Copies Keep Stuff Safe)のアジアノードとしての役割

・ 世界中の学術出版社及び大学図書館との共同運営事業
・ ダークアーカイブ(通常はアクセス不可)による長期保存の実現

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

36

NII NII-REOの現状

◆NII-REO: NII Repository of Electronic Journals and Online publications

▶ 電子ジャーナル収録状況

出版社	タイトル数	論文数	収録年	契約機関数	バックファイル
Springer	約1,130誌	約210万件	1847-1996	153	▶
Oxford University Press	約200誌	約90万件	1849-2003	115	
Kluwer Online	約800誌	約35万件	1997-2005	60	
IEEE/Computer Society	30誌	約30万件	1988-	3	

▶ 人文社会科学系電子コレクションの収録開始

・ HCPP(英国下院議会資料DB):平成23年10月~公開
・ MoMW(ゴールドスミススレズ文庫):平成24年7月~公開

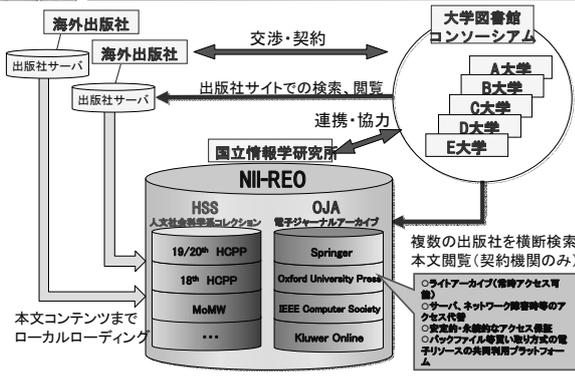
▶ セーフティネットとしてのバックファイルの基盤整備

・ 我が国の学術コンテンツの基盤整備の一環として、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)との連携・協力の下で一體的、戦略的、継続的にバックファイルの整備を推進

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

37

NII NII-REO概念図



平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

38

NII CLOCKSSとの連携協力

◆CLOCKSS(Controlled LOCKSS)とは

▶ スタンフォード大学のプロジェクトLOCKSS(Lots of Copies Keep Stuff Safe)技術を利用した大規模保存プロジェクト

▶ 国際的かつ地理的に分散した12のアーカイブノード(保存庫)でのダークアーカイブ方式

▶ 2006年から2年間は試行プロジェクト、2008年以降は正式プロジェクトへ

▶ 米国を中心とする大学等12機関及び11出版社による共同運営

▶ 参加出版社88、参加図書館164(2012.6現在)

▶ トリガーイベントの実例

・ 2008年1月、SAGE Publicationsの"Graft"出版中止時にCLOCKSSのアーカイブから公開

▶ 日本のコンソーシアム向けの特別提案

・ JANUL・PULC加盟図書館に対して特別ディスカウントの年会費 \$145

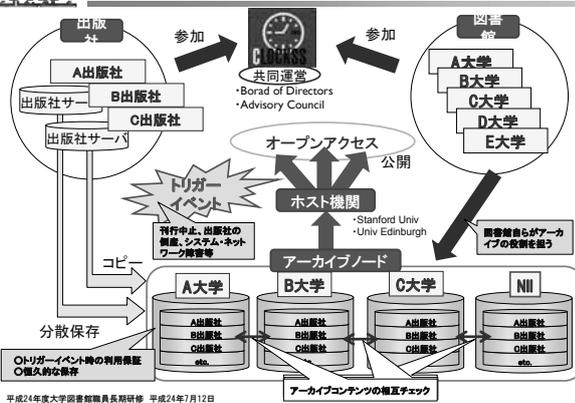
・ CLOCKSS参加の意義-電子ジャーナル長期保存の世界的ネットワークの構築に貢献

・ 国内参加図書館:30機関(2012.6現在)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

39

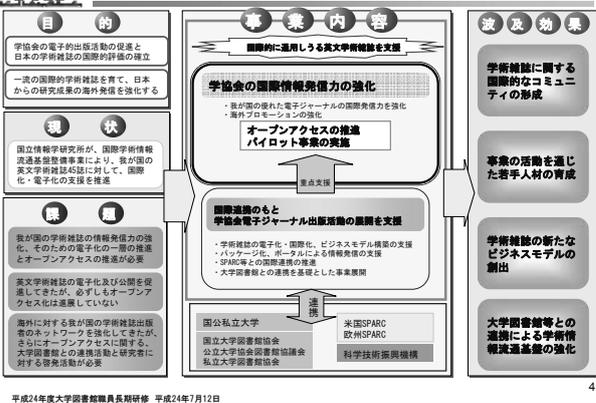
NII CLOCKSS-概念図



平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

40

NII 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)



平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

41

NII SPARC Japanの取組み

SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) Japan

- 国内学協会等の電子的出版活動の促進と日本の学術雑誌の国際的評価の確立
- 一流の国際的学術雑誌を育て、日本からの研究成果の海外発信力を強化
- 国際的視点からの学術情報流通の改善

	第1期 平成15～17年度	第2期 平成18～20年度	第3期 平成22～24年度
事業企画の募集		パートナー誌: 45誌	
電子化支援		全てのパートナー誌が英文EJ化/うち13誌はEJ-only	
セミナー開催	H17(10回開催)より実施	H18～20(22回開催)	H21～H23(23回開催:予定含む)
合同プロモーション			H19より国内外での出張活動
ニューズレター		平成21年2月号刊	現在まで12号刊行

■ 電子化支援: 英文パートナー誌45誌の電子ジャーナル化完了
 ■ セミナー開催: 国際会議 (The SPARC Digital Repositories Meeting 2010) 共催
 ■ 国立大学図書館等との共催のセミナー・シンポジウムの開催
 ■ 合同プロモーション: 分野別パートナー誌合同での国際学会への出席

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 42

NII 学術コンテンツ・ポータルGeNii

◆ 概要
国立情報学研究所(NII)の学術コンテンツポータルGeNiiは、専門性の高い情報を、まとめて統合的に検索できるサービス

◆ 情報源
大学図書館や学会などの学術コミュニティと連携し、研究者・学生・一般市民が必要とする学術情報を整備・提供。

◆ GeNii統合検索
目的の情報に近いものが「どこに」「どのような形で」「どれだけ」あるのか、的確なナビゲートで求める情報に誘導。

<http://ge.nii.ac.jp/>

◆ 論文情報
 ● 論文情報の統合検索
 ● 引用関係の表示
 ● 本文へのリンク: 4,611誌、379万論文
 ● 論文情報: 18,500誌、1,530万論文

◆ 図書・雑誌情報
 ● 理想検索機能
 ● Webcat Plus
 ● 所蔵図書館情報の参照
 ● 図書・雑誌情報: 図書・雑誌等3,430万件

◆ 研究課題・成果情報
 ● 文部科学省研究費助成事業の採択課題・研究成果を一括検索
 ● 採択課題67万件、実績報告76万件、成果報告15万件、研究成果報告各4.9万件

◆ 専門学術情報
 ● 複数の学術情報資源(データベース)を一括検索
 ● データベース29種、223万件

◆ 機関発信情報
 ● 日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を一括検索
 ● 対象機関リポジトリ249機関、100万件

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 43

NII CiNii Articles

日本の学術情報基盤となる論文情報サービス

学協会、大学等、関連機関から論文情報を集約・統合して提供し、研究者、大学等、学協会へ提供するサービス。

学協会: NIIと「覚書」締結、学協会誌(冊子体)の電子化、著作権処理等

大学等: 研究紀要の電子化、著作権処理等、機関リポジトリ

関連機関: 雑誌記事索引、J-STAGE

国立情報学研究所: NII-ELS(学協会誌、研究紀要)、学術論文の情報を網羅的・統合的に提供、様々なデータベースとの統合、論文同士に関連づけ、本文リンク、認証・課金

研究者、大学等、学協会: 検索、提供

<http://ci.nii.ac.jp/>

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 44

NII CiNii Articlesの特徴と収録DB

■ CiNiiの特徴

- NII-ELSの他、多様なデータベースを集約・同定・統合して提供
- NII-ELS以外にも、本文コンテンツを有するサービス(機関リポジトリ、J-STAGE / Journal@rchive)とのデータ連携を実現

■ CiNiiの収録データベース

データベース名	データ件数	作成機関	本文の有無
NII-ELS(学協会刊行物)	約341万件	国立情報学研究所	○
NII-ELS(研究紀要)	約104万件	国立情報学研究所	△
引用文献索引データベース	約193万件	国立情報学研究所	×
機関リポジトリ	約66万件	各大学等	○
J-STAGE / Journal@rchive	約52万件	科学技術振興機構	○
雑誌記事索引データベース	約1,045万件	国立国会図書館	×
CiNii合計	約1,584万件*		

*データが同定・統合されるため、単純合計とは一致しない。(平成23年10月現在)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 45

NII CiNiiの利用状況

◆ 検索数: 月間500万回以上、本文ダウンロード数: 月間200万件以上*
*平成23年度実績(平均値)。ただし、API経由の利用件数は含まれない

◆ メニューが(学部学生)の生活行動反映(夏季休暇中の低下など)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 46

NII CiNii Books 平成23年11月公開

◆ Webcatの基本機能を引き継ぎ

◆ 所蔵情報からの検索が可能

◆ 図書館のOPACに直接リンク可能

◆ 各種ウェブAPIを提供(データ活用促進)

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 47

NII

コンテンツ事業の今後の方向性

大学図書館との連携強化

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 54

NII 大学図書館との協定に基づく連携

◆「大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書」締結(平成22年10月13日)

➢ (目的)
「我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図る」

➢ (連携・協力の推進)

1. バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備
2. 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
3. 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
4. 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
5. 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
6. その他本目的を達成するために必要な事項

➢ (組織)
NIIと国公立大学図書館協力委員会との間に、連携・協力推進会議を設置

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 55

NII 大学図書館とNIIの連携の枠組み

◆役割:
協定書に掲げる以下の事項の連携・協力を進める

- (1)電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備
→ 学芸員等
- (2)機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (3)電子情報資源を含む総合目録DBの強化
→ 12年6月発足
- (4)学術情報の確保と発信に関する人材交流・育成
- (5)学術情報の確保と発信に関する国際連携推進

第三の委員会!

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 56

NII これからの学術情報システム構築検討委員会

◆設置
➢ 連携・協力推進会議の下に、委員会を設置(平成24年6月7日に第1回委員会を開催)

◆目的
➢ 大学図書館とNIIの連携・協力の協定書の課題のうち、主として(3)の「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的

◆組織
➢ 国公立大学図書館の職員、NIIの職員、その他有識者により組織

電子情報環境下における新たな学術情報システムを大学図書館とNIIの共同事業で

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 57

NII 電子リソースに関するこれまでの取組み

◆電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験
➢ 平成19年度～20年度に実証実験を実施

◆図書館連携作業部会ワーキンググループでの取り組み
➢ 平成21年度～23年度にかけて、電子情報資源管理のための検討を継続

◆アンケート調査
➢ 平成23年3月に「NACSIS-CAT/ILL参加館状況調査アンケート」を実施
➢ 「電子情報資源の管理・提供方法について」も調査

◆ヒアリング調査
➢ 平成23年度に複数大学図書館に対してヒアリング調査を実施

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 58

NII アンケート調査結果(管理)

●ERMS導入状況

	回答数	割合
あり	38	7%
なし	492	87%
検討中	32	6%

●電子情報資源の管理方法

	回答数	割合
図書館システム	214	31%
表計算ソフト(Excel等)	319	46%
ERMS	27	4%
その他	132	19%

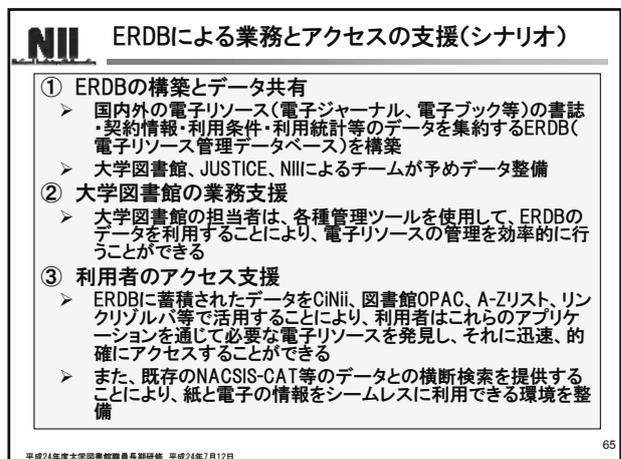
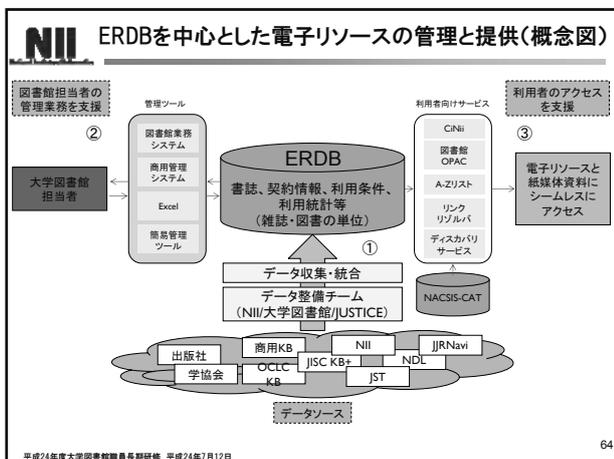
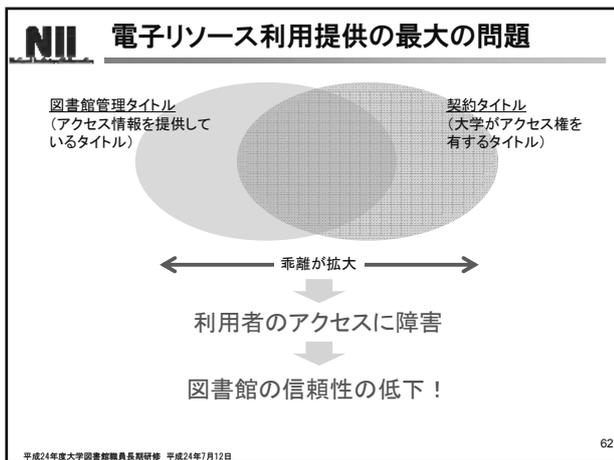
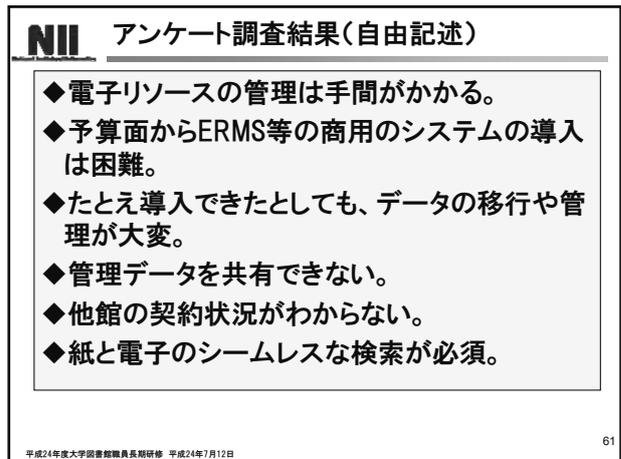
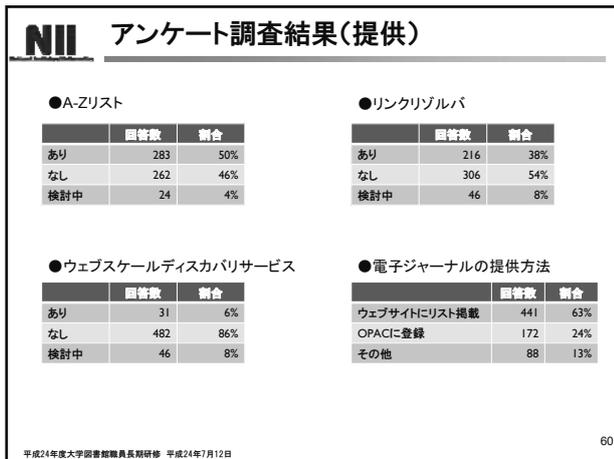
●利用条件・ライセンス情報の管理方法

	回答数	割合
図書館システム	95	13%
表計算ソフト(Excel等)	209	29%
ERMS	26	4%
アグリメントの保管	304	42%
その他	85	12%

●フリーコンテンツの管理

	回答数	割合
行っている	194	35%
行っていない	367	65%

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日 59



NII ERDBプロトタイプ構築プロジェクト

- ◆ 目的
 - ERDBプロトタイプの構築とその検証を通じて、ERDB開発に必要な情報を収集する
- ◆ 実施体制
 - 国立情報学研究所
 - ・ 開発、サーバ管理、課題整理、連絡調整
 - JUSTICE
 - ・ コンソーシアムデータの収集、統計データの分析
 - 参加図書館(12機関)
 - ・ データの提供、システムの利用・検証
- ◆ 主な検証のポイント
 - ナレッジベースのデータの質の顕彰
 - DBスキーマ・データマッピングの検証
 - ローダーの名寄せの精度の検証
 - 一元的なデータ整備の可能性
 - コストの見積り

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

66

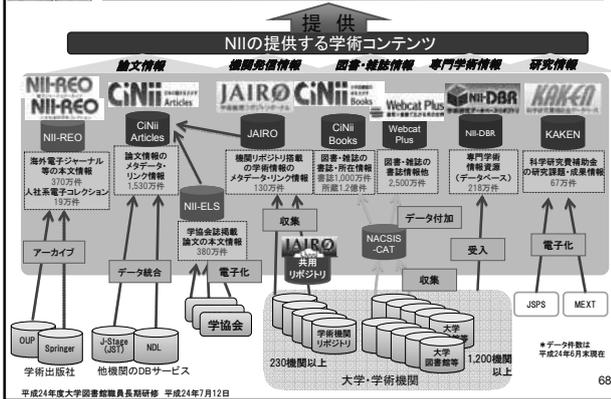
NII プロジェクトのスケジュール

	NII側の事業	大学の協力する作業
平成24年3月	大学図書館への協力依頼	
平成24年4月	プロトタイプ開発着手	大学図書館の電子リソース契約データの提供
平成24年5月	キックオフミーティング	
平成24年5～7月	プロトタイプのアルファ版開発(7月中旬頃)	メールによる意見交換(仕様検討)
平成24年8～9月	中間ミーティング	
平成24年8～12月	改善、UI作成	メールによる意見交換(プロトタイプの検証)
平成24年12月	最終ミーティング	
平成25年1月	プロジェクトまとめ・評価	

平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

67

NII 再掲:全体像(コンテンツの確保と発信)



平成24年度大学図書館職員長期研修 平成24年7月12日

68